

会長 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原 一夫 06-6833-9227  
事務局 〒577-0054 東大阪市高井田元町1-14-2 岡本 至弘 06-6788-2796  
編集室 〒586-0039 河内長野市楠ヶ丘11-18 中川 良三 0721-65-0348  
HomePage担当 〒577-0054 大阪市住之江区南港中3-3-31-520 坪井 仁志 06-6613-2836

令和7年3月(2025年) No.711

## 第65回の節目を迎える我がクラブの発表会

何かいい記念行事は考えられないか

合原一夫


我が大阪ムービーサークル(略称 OMC)の公開映写会は、今秋10月第1日曜日5日を一応候補として考えていますが、今年は65回という、一つの節目でもあります。60回目の節目は、関さんが在籍されていた時代で、8ミリフィルム時代、アマチュア映像界の発表の場としては、淀屋橋の朝日生命ホール(客席数300名以上)が定番でした。60回目の発表会も、この朝日生命ホールでやろうと、関さんのお世話もあって半年以上前から予約したものです。プログラムもB4二つ折りの豪華版で、関さん自らデザインされました。

第60回OMC映像フェスティバルは、2020年(令和2年)11月28日(土)に開催されましたが、当時のOMCニュース(660号)を開いてみますとあいにくコロナ過の最中で、外出控えのムードが漂う雰囲気だったようで、それでも80名の来場者があったと記録されています。

さて今回、コロナ禍は過ぎたものの、コロナ禍をきっかけにぐっと減って、コロナ禍前の観客数が期待できない現状で、いかに65回目の節目の発表会をやるか、何かいい考えは無いか?と思っています。

岡本副会長は、今まで毎回のように来て頂いている常連の方々に記念品をあげたらどうか、という案が出されています。他クラブの発表会で上映終了後、舞台上で抽選会をやり、地元特産品などの景品を提供する等の行事をやっていたこともありました。又、舞台上で他の団体の歌や踊りをはさむ等を見かけたこともあります。少し経費は掛かっても、何か観客を呼び戻す工夫は無いか、会員諸氏考えてみて下さい。

もっとも作品の方も、観て良かったと思ってもらえる作品創りも大切な事ですので、今秋の発表会目指して作品制作宜しくお願い致します。



### 3月例会のお知らせ

- 第4土曜日22日13時より。担当世話役の方は早めに来てください。
- 大阪市難波市民学習センターでの例会は、今月で終了し4月から例会場は東大阪市立市民多目的センターに変更となります。

(JR河内永和駅、近鉄河内永和駅より歩いて5分以内))

## 第43回 日本を縦断する映像発表会

### 今年先陣を切った発表会はますます

マチュア映像作家連盟と大阪市立中央図書館との共催行事である「日本を縦断する映像発表会」は、去る3月2日(日曜日)13時より、中央図書館5階の大会議場で行われました。当日は小雨模様のお天気で、出足が心配されましたが、92名の参加者があり、昨年100名を越す入場者があったのに比べ、1割ほど減ったことで、いささか残念な気もします。しかし、ここで高齢化の波が押し寄せて来ていると考えると共に、今後の発表会への取り組みへの示唆が含まれているとも考えられます。寒さがまだ残る日の開催で、今回はますますの盛会だったと思いたいですが。お手伝いして頂いた多くのOMC会員や大阪の作家連会員諸氏に厚くお礼申し上げます。



## <ニュース>

### 東京アマチュア映像連盟が解散

昨年は第57回東京アマチュア映像祭を開催してきた「東京アマチュア映像連盟」が、3月2日の臨時総会で「解散」の決議がされたようで、唯びっくりしています。きっかけは、鹿島隆雄会長が1月24日自宅のお風呂場で倒れられ、救急車で病院へ運ばれましたが、そのまま息を引き取られたことで、誠に残念な事でした。2月7日に盛大な葬儀が市川市の会館で執り行われました。

問題は、鹿島会長のあと誰が引き受けるか、という事でした。鹿島氏は日本アマチュア映像作家連盟の事務局長も務められており、アマチュア映像活動に多大なご尽力を頂いてきた方でした。東京アマチュア映像連盟は、川上勝悟会長時代、30を超えるクラブがあったのが、今は13団体になっていました。臨時総会では、結局、誰も会長の引き受け手が無く、解散せざるを得なかったようです。

課題として残るのは、亡き川上勝悟会長時代から続いてきた「全国ビデオ映像コンテスト」で、近年は日本アマチュア映像連盟と共催という形になっていたのを、東京アマチュア映像連盟が消えてしまいますと、作家連だけの主催になってしまうという事です。この件については全国コンテストを消さないでほしい、との声も強く、東京都との連絡を取りながら、日本映像作家連盟大阪事務局として色々検討を重ねている状況です。(合原記)

#### ■ 新会員のご紹介

江藤和敏さん 大阪市西区にお住まいです。よろしくお願い致します。

### 令和7年2月例会レポート

夕方の外気温4℃という、まだ寒さの残る2月22日(土)の例会日。梅の花がぼちぼち咲き始めたというのに、この寒さはいつまで続くやら。

今月の例会日、新しく江藤和敏さんという西区にお住まいの方が入会されました。名刺代わりに作品も持参されました。今月も14名の出席と12作品が出品され、合原会長の司会、高瀬書

記のもと2月例会が開催されました。

終わってからは、恒例の喫茶店組と居酒屋組に別れて二次会を楽しみました。例会のあとのこの二次会で更に趣味仲間との交流が楽しさを実感させてくれます。今後も楽しく盛り上げましょう。

## 令和7年2月例会

- **運営担当**：司会 合原、書記 高瀬、YouTube関係 高瀬、映写 江村、山本  
メモリー記録 中川、受付・照明 森下、宮崎の各氏
- **出席者**：生田、岩井、植村、江藤和敏（新入会員）、江村、岡本、上総、合原、高瀬、中川、道下、宮崎、森下、山本の14氏

上映作品（今月の書記は高瀬氏）

1. 東京散歩 岡本至弘 10分24秒 BD  
(作者コメント)

昨年、編集ソフト「エディウス ネオ 3.5」が潰れたため買い替えることにした。新ソフトは最新版の「エディウス 11、プロ」に買い替えた。使えるようになるまで2か月あまり、やっと初めての作品です。昨年11月に、ある団体の全国総会が東京であり、一泊二日の合間を利用して、ぶらり東京を撮影したものです。インバウンドによる外国人の多さに驚きました。



(書記コメント)

東京をぶらりと見物されての作品。スタートの東京駅、早朝なのでしょうか？、行き交う人の姿が少ない。そして皇居外苑、二重橋、丸の内などを訪ねられているが、いつもそうなのでしょうか、ここも人は少ない。しかし次第に街に人があふれ、浅草に行かれると、外国人観光客や参拝者で大混雑。動きのあるカメラワークで浅草寺や仲見世の雰囲気をとらえられているが、この浅草のシーンが4分30秒と半分近くあり、ぶらり浅草散歩という印象が強いように思います。

2. 動画編集ソフト clipchamp で AI 編集 中川良三 8分28秒 USB  
(作者コメント)

無料の動画編集ソフトを使って「タイ舞踊」スライドショーと「淀屋橋の光の饗宴」動画を創ってみた。誰でも簡単にclipchampを操作できるように手順を踏んで解説している。AI編集に起承転結はありませんが、映像を見て頂き操作方法を理解して頂ければ。



(書記コメント)

動画編集ソフト clipchamp の AI 機能を活用して、スライドショーと動画を編集されている。なかなか思いつかないような編集で楽しく見せてもらった。途中で編集スタイルが10種類あると出てきて、作者は Vintage を選択されているが、それぞれのスタイルを選ぶことによって、完成作品にどういう違いや特長があるのか示してもらえたらと思う。

3. 若狭から奈良へ 高瀬辰雄 7分30秒 BD

(作者コメント)

若狭・小浜のお水送りと、奈良東大寺二月堂のお水取りの二つを合わせて作品にしてみた。お水送りは若狭の遠敷明神が念じて、東大寺で若狭の水を湧き上がらせたという伝説に基づくが、東大寺縁起にはその話は記されていないようです。



4. 孝子(きょうし)越街道 山本正夢 10分20秒 BD

(作者コメント)

紀州から大阪に行く街道に紀州街道と、距離が長いが険しくない孝子街道がありました。別名、姫街道または脇街道と呼ばれました。

(書記コメント)

街道歩きの楽しみについて、ある人は「街道には歴史がいっぱい詰まっている。昔の人も歩いて同じ風景を見たのだなあとと思うと、感慨が湧いてくる」と話している。作者の街道シリーズはいつも居ながらにして、こうした楽しみを分けてもらえる。今回の孝子越街道は泉佐野から和歌山まで。スタートしてすぐに紀州街道との分岐点が出てくるが、そこから和歌山までは約25キロだそうだ。一日で歩かれたのでしょうか。街道と言えば山道が多いイメージだが、この街道は海沿いの集落を結ぶ道で、いつもと違って海や漁港が何度か出てきて、興味深い街道風景を拝見した。



5. 城の見える部屋 合原一夫 13分35秒 BD

(作者コメント)

1980年(昭和55年)当時、妻は心臓の手術の後、再び婦人科の手術で大阪城の見える大手前病院に入院した。1カ月足らずで退院の筈がなかなか退院の許可が下りない。同部屋のご婦人方は次々と退院されていく。切ない気持ちの妻。この作品は8ミリフィルムなので現場音は入っていない。映像と音楽だけで纏めた数少ない作品である。今思えば、あの婦人科の病室でよくあれだけのカットが撮れたものだと思う。今なら病室でカメラを向けることなど難しいだろう。それだけに今思うと貴重な作品だと思う。45年ぶりに蔵出しした作品である。



(書記コメント)

45年前のフィルム作品だが、さすが映像とBGMだけでよく分かる作品に仕上げられている。特にBGMはそれぞれのシーンの雰囲気をも的確に表現されている。病院の窓から外の風景を眺められるシーンなどは情感がこもっており、撮影に協力された奥さんに感銘を受けました。病室でよく撮影できたものだとコメントに書かれているが、病院の撮影で思い出したのは故中村さんご主人が入退院を繰り返されていた時のこと。中村さんご自身が見舞っているところを撮影してほしいということで、病院内の撮影は禁止だが、病室(個室)以外、他の患者や医師、看護師、病院内は絶対に映さないという条件で許可、というより看護師は見て見ぬふりしていますといった感じで何度か同行し撮影。2時間ほどの映像が残ったが、それをどう使われ

ようとしておられたのか、分からず仕舞いとなりました。

**6. お燈(とう)まつり**

**道下敏行**

**6分31秒**

**U S B**

(作者コメント)

和歌山県新宮市で2025年2月6日に開催された神倉神社のお燈まつりを撮影した。神倉神社内での撮影許可は取っていたが、YouTube等への配信が禁止のため、一番撮りたかった山門が開き、男衆達がいっせいに下りてくるシーンをあきらめ、神社前の道路脇から撮影。



(書記コメント)

新宮のお燈まつりということで、松明を手にした男衆達数十人が一斉に石段を駆け下りて来る、勇壮で迫力のある映像を期待したが…まさか撮り逃されたのかと思ったが、後で知ると、YouTubeへの配信が禁止のため撮影されなかったとか。そのためお燈まつりとしてはやや残念な感じですが、作品にはそうした作者の悔しい思いが滲み出ているような気がします。

**7. 2024よさこい**

**江村一郎**

**8分**

**BD**

(作者コメント)

「巨大地震注意」の状況下で予定どおり開催されたよさこい祭り、188チーム中4チームが辞退する。踊り子1万7千人の熱い乱舞と「よさこい」の原点を少し振り返った。



(書記コメント)

昨年8月南海トラフの注意情報が流れる中、開催された高知のよさこい祭り。熱気あふれる乱舞を、特に中盤以降、アップの多用やスローモーション、踊り子の表情をとらえた絶妙なアングルなど作者ならではの映像表現で、よさこいの真髄を發揮された作品に仕上げられている。ラスト近くに、踊りと関係のない避難ビルの標識が出てきて、一瞬、違和感を覚えたが、結びで冒頭の地震注意とのつながりを意識されたものと思われまます。

**8. 煌めく炎**

**生田幸靖**

**3分58秒**

**U S B**

(作者コメント)

毎年1月第4土曜日に行われる奈良礼賛大花火と若草山の山焼きを同時に見ることができたら…。願望を映像にしてみました。



(書記コメント)

奈良若草山の山焼きは、ポスターなどを見ると、山焼きと花火が描かれており、同時に見られるものと期待するが、実際は花火が終わって、しばらくしてから山焼きが始まる。しかし映像の世界ではこの想いを表現できる。作者はそうした願望を持たれ、これを実現された。花火を背景に山焼きの炎が立ち上がっていく映像は秀逸。

**9. 三社祭**

**江藤和敏**

**10分**

**DVD**

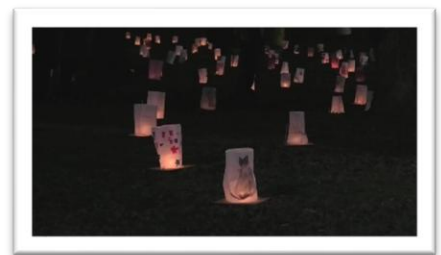
(書記コメント)

新入会の江藤さんが名刺代わりに持参された 2016 年制作の作品。非常に丁寧に撮られ、手振れもなく、撮影対象を的確にとらえられているのに好感が持てます。ただ撮影した映像をそのままつながれたのではないかと思われ、ひとつずつのシーンがやや長いので、冗漫なところはカットし、見てもらいたいシーンや、これとは思わせるシーンなどを選び、時には並び替え、タイトル、作者名、「終り」「おしまい」といったエンドマークを付ければ、「作品」として通用すると思います。なお例会では画面が 4 対 3 に近い変形になっていましたが、パソコンで再生すると、16 対 9 の正常な画面に戻っていました。



**10. 2024 万灯絵 上総秀隆 9分30秒 BD**  
(作者コメント)

堺市大仙公園の古墳前に広げられる三千基の灯ろう。前日に準備する人々の作業風景から翌晩の完成風景までを追った。



(書記コメント)

大仙公園での万灯絵の模様を準備段階から灯ろうに灯が入るまでを、主催者の話も加え、丹念に撮影。次第に陽が暮れ、夜の闇に灯ろうの絵が浮かび上がる幻想的な風景を描かれている。並べられた灯ろうや灯ろうの点灯、夜の風景はアップやワイド画面を交え、工夫して編集されているが、似たようなシーンもあるので、もう少し絞り込まれてはどうでしょうか。

**11. だるま寺の節分 高瀬辰雄 6分10秒 BD**

(作者コメント)

京都市上京区円町上ルの法輪寺は通称「だるま寺」と呼ばれています。普段、参拝者は少ないですが、節分の日だけはお参りする人で賑わいます。寺には 8000 体のだるまが置かれており、どこを見てもダルマ、だるま、達磨…です。



**12. 長谷寺 だだおし 道下敏行 3分7秒 USB**  
(作者コメント)

奈良県桜井市にある長谷寺で修二会が結願する 2 月 14 日に「だだおし」法要を撮影した。静と動を意識し、鬼の動きをより迫力あるものにするため護摩や松明の炎を映像に重ねて編集した。



(書記コメント)

作者コメントにあるように、静と動、迫力のある鬼の動きを護摩や松明の炎を重ね合わせた編集は秀逸で、作者の意図が的確に表現された作品となっている。ただ寺の静かな描写の後、本堂に並べられた鬼の面から、鬼と炎の登場、動に移るシーンがやや唐突な感じで、この繋ぎにもうひと呼吸あっても良かったのではないかと思います。